

蹉跎小学校 児童登校支援(不登校対応)方針

令和8年4月
枚方市立蹉跎小学校

学校対応

連携対応

レベル0 登校支援体制・取組の充実

学校教育目標
「つながる(安心)ほこれる(大好き)わたしがつくるさだ小学校」
☆幼保こ小連携「スタートカリキュラムの充実」
☆窓口の拡充(担任、生徒指導主担、養護教諭、管理職等)
☆不登校支援協力員および支援ルームの活用

専門家等との連携
・心の教室相談員・スクールカウンセラー
・スクールソーシャルワーカー
・コミュニティスクール(学校運営協議会)
・地域のフリースクール

レベル1 連続欠席が2日、または月間の断続的欠席が3~5日

担任による電話連絡を行います
欠席理由
医療機関への受診の有無について
次の登校時の連絡
などを行います
※欠席理由が不明瞭な場合、家庭訪問等で確認
することもあります

学級・学年・教科など校内での情報共通を行います

- ①学級での様子
- ②人間関係
- ③学習状況の確認
- ④部活動などの様子
- ⑤スクリーニングシート

不登校対策委員会で検討

チェック

保健室への来室状況
なども有力な情報に
なります。

レベル2 連続欠席が3日以上、または月間の断続的欠席が6~9日

担任による家庭訪問を行います
子どもの表情・様子 家庭環境
子どもの生活リズム 保護者の見立て
子どもの友人関係 登校への意欲レベル
子どもと保護者の関係性
などに注意しながらお子さまの様子を伺います

生徒指導・学年・委員会・SC・SSWとの連携を行います

- ①家庭環境
- ②学校での様子
- ③学習状況
- ④過去の欠席状況
- ⑤支援を要する場合の対応

ケース会議

情報共有した内容
は、学校全体で共
有します。

レベル3 長期欠席(学期内で10日以上、年間30日以上)かつ、家庭と連絡が取れる状態

① 学校とのつながりを切らない努力をします

- ・電話・タブレットを活用した継続的な連絡、
家庭訪問を実施します
- ・行事への参加の仕方も家庭と相談します

② 保護者、本人の意向の確認

- ・学習の仕方の確認(タブレットの活用等)
- ・SC、SSW等専門家相談へつなぐ
- ・別室対応(校内教育支援ルーム)

個別対応が行えるよう、校内体制の確保を行います

学校外の組織との連携

①教育支援センター「ルポ」

- ・学校を通さず直接家庭からの申込みできますが、登室状況は
センターと学校で情報共有を行い、子どもの支援を行います。
枚方市教育文化センター別館1F(TEL:050-7102-3154)
- ・登室・訪問指導

②院内学級

③フリースクールなど

④その他必要に応じてつなぐ関係機関

- ・医療・診療内科(発達の課題)・少年サポートセンター(非行)など

家庭と連絡が困難な状態 レベル4 長期欠席(学期内で10日以上、年間30日以上)

① SC、SSW等の専門家を交えたケース会議を行い

目的意識を持って組織的に対応します

② 長期的に連絡が取れない場合、学校には公的関係機関への 通知や通告義務があることをお伝えさせていただきます

重大事案を想定した連携する関係機関

区分	連携する関係諸機関
就学義務違反	教育委員会
虐待	まるっこどもセンター
非行	少年サポートセンター・スクールサポーター

家庭と連絡が困難な状態 レベル5 年間の出席が10日以下

電話連絡や家庭訪問を行う中で、学校が家庭へ
アプローチした記録はすべて残します
また、日々の学校対応を記録しています

- ・電話連絡の際、留守番電話にメッセージを残す。
- ・家庭訪問の際、手紙を投函しておく。など

家庭と連絡が取れない状態、または家庭と連絡が取れても子どもに
アプローチができない状態が続く場合には、子どもの命を守ることを
最優先に考える対応を行います

重大事案に発展しないための緊急的な連携

- ①長期的に家庭との連携が取れず、「虐待」の疑いがある
場合は、緊急的に関係諸機関と連携します。
→教育委員会へ通告書の写しを提出
→まるっこどもセンターまたは中央子ども家庭センター
に通告・状況に応じて警察に情報提供
- ②学校対応について保護者から過度な要求がある場合。
→スクールロイヤーに相談します(教育委員会を通して)

不登校児童・生徒の状況は多様であり、本方針とは異なる個別の対応を行うこともあります。